



ケイヨウキンコウのケイヨウインコ

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館

第17回

昭和の杜博物館 (松戸市)



インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

私的に集められた、昭和の時代の 膨大なコレクションが並ぶ博物館

昭和の杜博物館は、クラシックカーや電車、おもちゃ、フィギュアなど昭和ロマンあふれる4,000点以上の品々を展示している私設博物館です。

もともと、車好きだった初代館長 故・吉岡光夫さんが、大好きな古い車を集め始めたのがきっかけです。さらに、吉岡さんが本業である建設の仕事に行くと、お客さまから不要になった昭和の雑貨やおもちゃ、家電などを譲り受けるようになりました。集めたコレクションが自宅や倉庫に収まりきらなくなると、売りに出していた土地を購入し、そのコレクションを並べ、知人に見せていたそうです。そして、知人たちの勧めをきっかけに2010年10月に私設の博物館としてオープンしました。

クラシックカーは1920年代～70年代までのものが中心で、日本車だけではなく、海外の車もたくさん展示しています。

また、屋外にはプロペラ機や電車、ソーラーカー、南極観測で実際に使われていた雪上車まで、数々の乗り物も展示しています。電車には実際に乗ることができ、稀少な旧国鉄車両などもあって、お子さまたちにとっても喜ばれています。

屋内には、皆さんが使ったり見たりしたことのある懐かしい身近な品々が展示されています。これを眺めて回るだけで、昭和の時代を過ごしてきた大人の方々にはたまらない時間だと思います。

現在、ボランティアのスタッフで運営しているため開館日は限定的ですが、毎回たくさんの方が来館されます。皆さん「これ使った」「懐かしい!!」なんて感想を言いながら長い時間をかけて見学されています。ぜひ当館に足を運んでいただき、タイムスリップのような体験を試してみませんか。



昭和の杜博物館
平岩 浩一さん

昭和の杜博物館とは？

松戸市にある、昭和ロマンあふれる品々を展示する私設博物館。オープンは2010年10月。初代館長の故・吉岡光夫さんが集めた車や昭和のコレクション4,000点以上をテーマ別に展示しています。その中には、昭和の少年たちが胸を躍らせた空想画家、小松崎茂先生のコーナーもあります。



クラシックカー

館内には国産車の初期の名車たちを展示中。オート三輪やダットサン・ブルーバードなどを当時のままの姿で見ることができます。この貴重な車両は、昭和の時代を描いた映画にも貸し出されました。

車やおもちゃ、日常品まで 懐かしい品々をテーマ別に展示

昭和の杜博物館は、屋外展示場と屋内展示場に分かれています。

入り口から入ってすぐ、屋外展示場には車好きにはたまらない「クラシックカー館」があり、国内外の名車が展示されています。「昭和の広場」には退役した鉄道車両や飛行機などがぎっしり並んでいます。

屋内展示場には、昭和をキーワードに車やおもちゃ、日常品などオールジャンルの品々を展示しています。昭和の日本で活躍した車などが展示された「昭和館」、プラモデルのパッケージなどでお馴染みの空想画家小松崎茂先生の作品が展示された「小松崎茂館」、昭和の生活用品を展示した「昭和歴史館」、おもちゃを展示した「おもちゃ館」、さまざまな模型を展示した「模型館」などテーマ別のコーナーが展開されています。



「クラシックカー館」に展示されているソーラーカー

屋外展示場(クラシックカー館)

車好きだった初代館長が趣味で集めた多数の車が展示されています。クラシックカーは車体もインテリアも何もかも美しく豪華で、思わず見惚れてしまうほど。トリノモーターショーで発表されたコンセプトカー「ランチア・ミザール」、そして伝説の国産車、マニア必見の「日産スカイラインGT-R」も展示されています。



▲日産スカイラインGT-R(写真左) 日野コンテッサクーペ(写真右)など往年の名車が展示されています。
▶フォード・サンダーバードも展示されていました。カッコいい!



おもちゃ館

「おもちゃ館」には、ブリキや木製のおもちゃ、ソフビ人形など昭和の時代に人気のあったおもちゃが大集合。ガラスケースに所狭しと展示されているおもちゃたちを前にすると、興味や思い出などで、なかなか先に進めない方が多いかもしれません。



模型館

「模型館」では、戦艦や戦闘機の模型が数多く展示されています。どれも精密に作られていて迫力があります。懐かしのプラモデルの箱も展示されていて、箱を見ただけで大人も子どもも夢中になります。昭和の少年たちの思い出が詰まったコーナーです。



昭和歴史館

身近な生活雑貨や道具、電化製品や高級洋酒まで、あらゆる品々を展示しています。また、当時のお茶の間や店先が再現されたコーナーもあります。「おじいちゃんの家で見たことがある」「これ使ってた」など、一つひとつの製品からさまざまな感情が浮かんでくるレトロワールドです。



▲オートバイや自転車も展示されています。日活映画のポスターも貼られていました。



▲昭和の暮らしを再現したコーナー。

●問い合わせ／昭和の杜博物館

松戸市紙敷1377 TEL.047-369-7870
開館日：第1・3日曜日

一番右に見えているのが
ランチア・ミザール



すごい!この展示物を見逃すな!

アメリカ海軍 CV-8 ホーネット 1/50模型

これ見て!



「模型館」に入ると、そこに突如現れる超巨大な模型が頭をこちらに向け展示されています。

その大きさはなんと全長4.9m、最大幅50.6cm。この模型の正体はアメリカ海軍CV-8ホーネットの1/50模型です。近くで見ると、その余りの大きさは全体を見渡すことができないほどの迫力があります。それでいて一つひとつの造作はあくまでも緻密。

この驚くばかりの“超”模型を製作したのは、地元松戸に集う「松戸迷彩会」のメンバー。1993年に足掛け15年の歳月をかけ

て完成し、その後各地の作品展などで公開されてきましたが、最終的にこの昭和の杜博物館にて常設展示されることになりました。

合板、甲板材、ポリエステルパテ、アクリル、真鍮棒などの素材を駆使し、全て手作りで製作されています。

CV-8ホーネットとはアメリカ海軍の航空母艦で、排水量19,900t、全長252.2m、乗員2,919名の巨大な船です。

この大きさと完成度、そして製作期間15年。製作者達の情熱が伝わってくるような作品です。

コレを探してみよう!

今回は、昭和の杜博物館をさらに楽しむためのちょっとマニアックな名品を選んでみました。数多くの展示物の中から探してみてください。



ダイハツ・ミゼット

昭和の時代に、配達などで大活躍したオート三輪です。クラシックカーが並ぶコーナーの一角に展示されていますので、ぜひそのかわいい姿を見つけてください。



蓄音機

これ、何か分からない方もいるかもしれません。上部に取り付けられたラッパ風のはスピーカーで、昔のレコードプレーヤーです。昭和の生活用品などが展示されたコーナーにあります。

「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第17回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、「模型館」にある巨大なアメリカ海軍空母の模型。この空母の名前は何でしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① ホーネット
- ② ヨークタウン
- ③ エンタープライズ

取材協力・撮影協力/昭和の杜博物館

プラスαで、未来をとともに。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌 検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



正解は→① ホーネット

2026.5
(次回発行予定/
2026年6月19日)